関連イベント

オンラインライブ配信

1. 日産アートアワード2020・ヨコハマトリエンナーレ2020連携パネルディスカッション
「ニューノーマルにおけるキュレーター、アーティストの新たな視点
新たな時代のアートアワードと国際展を考える」

パネリスト **ウテ・メタ・バウアー** 南洋理工大学シンガポール現代アートセンター(NTU CCA Singapore) 創設者、同大学美術・デザイン・メディア学部教授、日産アートアワード 2020 国際審査委員
南條 史生 森美術館特別顧問、日産アートアワード 2020 国際審査委員長
ラクス・メディア・コレクティヴ ヨコハマトリエンナーレ 2020 アーティスティック・ディレクター
蔵屋 美香 横浜トリエンナーレ組織委員会副委員長、横浜美術館館長
モデレーター **堀内 奈穂子** NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT／エイト] キュレーター、日産アートアワード企画・運営事務局

8月4日(火) 19:00-20:30

共催 横浜トリエンナーレ組織委員会 ／ 特別協力 SUPER DOMMUNE
[無料・申込み不要・同時通訳あり]

2. グランプリに聞いてみよう!

グランプリ受賞者のスタジオと日産アートアワードの会場を中継でつなぎ、実際に制作しているスタジオの様子や今後の活動のこと、普段の生活についてなど、来場者のみなさんからのいろんな質問にアーティストが答えます! インターネットからの視聴とチャット機能を使った質問も受け付けます。質問や感想をアーティストに直接伝えたい方は、ぜひご参加下さい。

9月5日(土) 11:00-12:00

[無料・申込み不要・日本語のみ]

その他「日産アートアワード」を楽しむ方法

映像アーカイヴ

1. ファイナリスト・トーク

各ファイナリストと候補者推薦委員との対談の様子を日産アートアワードのHPにて随時公開! ファイナリスト自身の活動や今回の展示についてご覧いただけます。作品を理解するきっかけとして、ぜひご視聴ください。

潘 逸舟	x	堀内 奈穂子	NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT／エイト] キュレーター、日産アートアワード企画・運営事務局
風間 サチコ	x	木村 絵理子	横浜美術館主任学芸員、ヨコハマトリエンナーレ2020 企画統括
三原 聡一郎	x	田坂 博子	東京都写真美術館学芸員
土屋 信子	x	水田 紗弥子	Little Barrel キュレーター、日産アートアワード企画・運営事務局
和田 永	x	畠中 実	NTTインターコミュニケーション・センター[ICC] 主任学芸員

[映像 各20分程度]

2. #おうちで美術鑑賞

日産アートアワードの展覧会の様子を映像でも楽しむことができます。

[映像 10分程度]

※開催日程や会期中のプログラム等は変更の可能性があります。最新情報は、日産アートアワードのHPをご覧ください。www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/NAA

NISSAN ART AWARD

日産アートアワード 2020
ファイナリストによる新作展

2020年8月1日(土)ー9月22日(火・祝) ニッサン パビリオン

主 催 日産自動車株式会社
企画・運営協力 NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT／エイト]
展覧会協力 ライトアンドリヒト株式会社
展覧会後援 横浜市 文化観光局

8月26日(水)
グランプリ発表&授賞式の様子をオンライン生中継!
詳細はHPをご覧ください。

@NissanArtAward @Nissan @NissanArtAward @NissanGlobal @Nissan @NissanGlobal

コロナウイルス感染拡大防止対策について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からご来場のお客さまには、以下の通りご協力をお願いいたします。

- 気分がすぐれない場合や体調不良時は、お近くのスタッフにお申し出ください。体調確認によっては、入場をお断りする場合があります。
- 咳エチケットをお守りください。
- 原則、マスクの持参、着用をお願いいたします。
- 会場内に消毒液をご用意しています。手指の消毒にご協力ください。
- 会場内では、他の人との距離を1メートル以上あけてください。
- 映像作品が展示されている空間は、接触を防ぐため限られた人数でのご鑑賞となります。空間内の人数が多数になる場合は、監視員が順番にご案内いたします。

会場内では、感染予防として以下の取り組みを行っています。

- 各所に消毒液を設置しています。
- 会場内の作品や手すりなど定期的にスタッフが消毒します。
- スタッフは毎日検温を実施し、健康管理に努めます。また、マスク・フェイスシールドを着用し、対応いたします。
- 会場内では、換気システムを導入し、定期的に(1時間に2回程度)空気の入れ替えを行っています。

展示作品について

展示作品、展示ケース、備品にはお手を触れないようお願いいたします。一部の作品はお手に取って鑑賞いただけます。お手に取る際は、手指の消毒にご協力ください。

1　風間 サチコ　Sachiko Kazama

世の中の理不尽に対する憤りを制作のモチベーションに変える風間は、古書や思想書、時に漫画などを入念に研究、解釈しながら、歴史的な主題を木版画の手法により現代の文脈へと接続させています。
本展に向けて風間は、オリンピックや万国博覧会など国家的祝典にまつわる歴史や、近代化を象徴する思想やモニュメントをリサーチし、アイロニーとユーモアに富んだ新作を制作しました。長い構想期間と、その後に続く制作期間を経て作り込まれた一連の版画作品は、社会への深い洞察を持ち合わせながらも、一貫した劇画タッチで時に寓意的なモチーフも彫り込まれ、緻密で壮大なフィクションの世界へと鑑賞者を導きます。

ディスリンピック2680
2018
2424 x 6405 mm／木版画（和紙、油性インク）
A.P.

PAVILION―白い巨象（もんじゅ）館
2020
915 x 1450 mm／木版画（パネル、和紙、油性インク）

COUNT ZERO
2020
390 x 260 mm／リノカット（紙、油性インク）、カレンダー

PAVILION―地球のおなら館
2020
915 x 1450 mm／木版画（パネル、和紙、油性インク）

¥＝∞
2020
778 x 1080 mm／リノカット（紙、油性インク、アクリルフレーム）

2　三原 聡一郎　Soichiro Mihara

自然現象とメディアテクノロジーを融合させた表現を行う三原は、これまで、音、泡、放射線、虹、微生物、苔、気流、電子など多様な対象を扱い、芸術領域と科学を交差させ、社会を映し出すシステムを提示しています。
本展に向けて、三原は生命を司る最も根源的な要素である「水」をモチーフにした作品を制作しました。天井と床に設置された装置により、空中に漂う水分子は三態（氷、水、水蒸気）の推移として可視化され、ささやかに、おおらかな変化を繰り返します。多くの人が非意識的に日々触れている「水」、その性質をあらためて体験することで、近年の、世界的な気候変動によって発生する水害や渇水、地球外生命体の兆候、法的人格が認められた河などの例に見られるような、水と人間を含む生命との新しい関係性を想像させます。

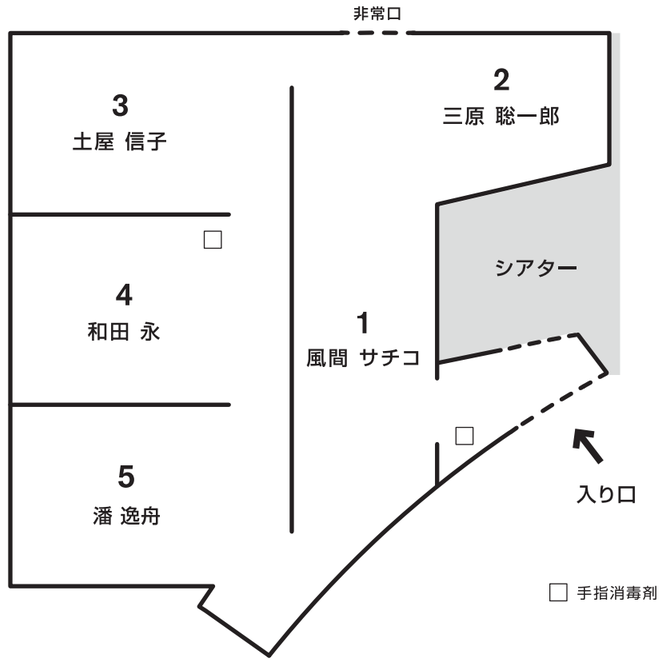
無主物
2020
サイズ可変／半導体、電気、金属、木、苔
制作協力：平林 慎(デバイスアセンブル)、小川 智彦(組木)、木下研究所 斉田 一樹（電源制御設計）
京都芸術センター制作支援事業

3　土屋 信子　Nobuko Tsuchiya

土屋は、ウールやシリコン、鉄の破片、綿、プラスティックなど、身近なものや拾い集めた廃材を組み合わせ、時に時空を超えた未来都市のような彫刻を制作しています。
本展では、土屋はあらかじめテーマを設定して制作を行うのではなく、昨今のパンデミックにより揺らぐ社会や日常、そしてそれによって生じる自身の心理的な変化を、意識下のイメージを記述するオートマティズム（自動記述）のような手法により素材や形状を導き出し、可視化することを試みています。空間に配置された大小の彫刻は、それぞれが異質で独立した世界観を持ちながらも、互いに偶発的に調和しながら存在しています。そこからは、自然への畏怖や予測し得ないものへの不安など、精神のランドスケープが浮かび上がります。

Mute-Echoes
Mute-Echo, Breve, Repeat, Creotchet, Key, Rest, Sharp, Quaver
2020
サイズ可変／ミクストメディア
BankART1929制作支援

※作品情報は、タイトル、制作年、サイズ（h x w x d mm）、素材・技法、所蔵先の順に記しています。



4　和田 永　Ei Wada

和田は、オープンリール式テープレコーダーやブラウン管テレビなど、本来の役割を終えた電化製品と現代のテクノロジーを融合させ、新たな楽器や奏法を編み出してきました。
本展では、和田が近年取り組んできた古家電を楽器化する参加型アートプロジェクト『エレクトロニコス・ファンタスティコス!』の次なる展開となる新作を展示します。本作は、互いに会ったことのない、異なる５つの場所に暮らす人々が、それぞれの場所で古家電を見つけ、楽器として組み立てて演奏に挑戦する映像と、それら楽器の考え方やつくり方を纏めた『電磁楽器手引書』によって構成されています。それらは、和田が構想する「電磁民族音楽」や「電磁舞踏祭」といった、国境を越えた多種多様な参加者と共奏する物語の、最初の実験であり実践となります。世界中の異なる地域から、身の周りの道具を転用させることで始まっていくこの小さな物語は、新たな多重奏の可能性を問いかけています。

無国籍電磁楽団：紀元前
2019 -
サイズ可変／紙、中古電化製品、その他
※本作品は、他作品鑑賞への配慮のため、音声有･無の映像を交互に上映しています。（各約１０分）

5　潘 逸舟　Ishu Han

幼少期を上海で過ごし、その後、青森に拠点を移した潘は、自らの経験と向き合いながら社会が生み出す様々な境界や、その狭間で翻弄される身体の戸惑いを可視化しています。本展では、新作の映像作品とともに、海に囲まれた日本に多くある消波ブロックをモチーフにしたインスタレーションを展示します。消波ブロックを包んでいるのは、通常、災害時や遭難時に体温低下を防ぎ、難民などに配布される物資の一つであるエマージェンシーシートです。それは宇宙に向かうために開発された素材でもあります。皺が寄り、鈍い光沢を放つ消波ブロックは、移動してきた人間の痕跡を想起させ、海岸に積み上げられた消波ブロックの群れから離れ、海のなかで孤独に漂う姿は、未知なる場所に漂着した宇宙船のように空間に横たわります。その象徴的な様子は、人間と移動の歴史的な関係性を可視化しつつ、今まさに、地球規模の変化にともなう数々の混乱の中で、居場所を失った無数の人々の存在をも喚起しています。

where are you now
2020
サイズ可変／インスタレーション、エマージェンシーシート、ビデオ
機材協力：東京藝術大学大学院映像研究科